

# DOYOU

さいたま

500号

特別記念号



(株)こまむく  
代表取締役

小松和人氏



(株)ファースト埼玉  
代表取締役

星山忠俊氏



(株)grain grain  
代表取締役

鈴木美緒氏

## 吠える。若き経営者。

同友会が目指す、組織作りの為に。  
新進気鋭の経営者に聞く。

「よい経営者になろう」と、日々学び続ける経営者団体、それが同友会です。学びを実践につなげ、さらなる高みを目指す若き経営者3人にスポットを当てて、その生き様、戦略、今後の夢を語っていただきました。

同友会の三つの目的 / 良い会社 良い経営者 良い経営環境をめざす

2019-11 November  
VOL. 500 毎月1日発行

特  
集

- ◆若き経営者に聞く！  
～同友会で何を学んで何を実践しているのか～
- ◆第47回 青年経営者全国交流会in熊本

<http://www.saitama.doyu.jp>





# しなやかな感性で時代の一步先を

(株)grain grain 代表取締役

## 鈴木美緒氏

「上機嫌でないときの自分が分からなくなっています」

と語る鈴木氏は常に笑顔。

「失敗しても挽回する方法はいくらでも思うのです。」

それよりも気持ちが落ち込んで前に進めなくなるのが怖いです」

ポジティブな思考が、その運命をも大きく前進させているに

違いない。そう感じさせる自信と覚悟が瞳の奥に輝いていました。

- ◆ 東部地区会
- ◆ 事業概要: 通所介護・事業所内保育園・カフェ事業
- ◆ 所在地: 埼玉県春日部市大場207
- ◆ 起業年月: 2013年7月





保育所とデイサービスが併設されているからこそ風景

### 指針セミナーを受けたくて!

初めに同友会を紹介してくれたのは、会員であり高校の同級生でもある今村達郎さん(株)アクアガーデン)でした。同じ業界で活躍中の西本淳弥さん(株)アートエンディング)からも「同友会はいいよ」と入会を勧められ、話を聞くうちに、同友会で毎年開催されている、経営指針セミナーをぜひ受けたいと思い、入会を決めました。

起業して2年目、2015年の事でした。

「指針セミナーはとても勉強になったし、知らないことを学ぶことは楽しかったです。学んだことは「人を生かす経営」の一言に尽きます。スタッフがいきいきと働ける会社づくりをしているのが、その後の私の経営の指標になりました。」

セミナー受講の翌2016年に「荻野吟子賞」を受賞。2017年には、SmileWomenピッチビジネスコンテスト最優秀賞、ビジネスプランコンテストキャピタル賞と相次ぎ受賞したことは記憶に新しいですが、「もし、同友会に入っていなかったら、学んでいなかったら、どの賞も無縁の存在だったと思います」と謙虚に語ります。

### 同友会は本音の場

「同友会は、異業種の経営者の集まりです。それだけでも魅力的ですが、私にとっては、自分の本音を語れる安心の場所です。時にはプライベートの話もできる信頼する仲間たちがたくさんいます。今は子どもが小学生ですが、成長したら、委員会や例会にも、もっともっと積極的に参加したいと思っています。自身が成長できるように日々学んでいきたいです。」

最近では多くのセミナーに、講師として招かれることも多い鈴木氏。忙しい中でも極力、講師依頼を受けるのは、その経験が、自身にとっても代えがたい成長の場であるとの思いからなのだそうです。

### 起業のきっかけ—ママさんたちを応援したい

grain grainではひとつの建物に保育所とデイサービスを併設しています。起業のきっかけは、東日本大震災。震災が起きた当時、仕事と育児の両立に悩んだ末に会社を辞め、専業主婦だった鈴木氏は小さい子供を抱え、何もできない自分から脱却したいと一念発起したのだと、当時を振り返ります。「叔父の残した建物を活かし、自分と同じ立場のママさんたちを応援しようと決めました。介護施設に保育所をつくれれば、送り迎えの負担がなくなるし、世代間交流ができるし、高齢者に優しい子供が育つ。メリットは計り知れません。最終的には、この保育所で育つ



た子供たちが、大人になったときに、介護職や保育士についてくれたら大成功だと思っています。現状のニーズだけでなく、将来につなげていきたいのです。」

### 自分らしく働ける会社をつくる

「起業当初は離職者も多かったのですが現在は最高のスタッフが揃っていると自信をもっています。同友会の掲げる「人を生かす経営」は我が社の経営の根っこになっています。その理念があるからこそ、出産後も安心して戻って来られる職場、家族を安心して入社させることができる会社、自分らしく輝いていられる会社になりつつあるのだと、自負しています。」

同時に障害者雇用も進めているそう。「いろいろな人がいて、成り立っている会社は面白いと思います。多様性を認め合う社会って理想だと思いませんか?それぞれの個性が育まれ、自主性を発揮できて、主体的に行動できる人材の育成ができる経営をしていくことが使命だと思っています。」

### これからの計画

学生の頃、「生きていくための教養・知識」を教えたくて、保健体育の教師を目指した鈴木氏は、現在、介護予防・子育て支援・自然食カフェの3事業をコラボさせたデリスタイルのカフェを建設中です。強い「食へのこだわり」が大きく実を結ぶビジネスとなりそうです。「次のチャレンジは、日本よりもオーガニック志向の強いアメリカやヨーロッパを意識しています。」

店舗を増やすのではなくネット販売で広げていけたらと考えています。

「10年後は、趣味が経営ですと言えるくらいの余裕をもてる経営者になるのが夢です。自分がない状態でも、周りのスタッフが気持ちよく働いている。そんな会社にしたと思います。出来ると100%信じること、それが実現の鍵です」。

(東部地区会 宇野碧留 記)



デイサービスおもっぶ つぶつぶ保育園児共同でつづっている畑



# 星山忠俊氏

## 原動力は根拠のない自信

(株)ファースト埼玉 代表取締役

個人事業主からスタートし、激戦区へ移転し法人化、売り上げは右肩上がり、大変な時を乗り越えた時に自分が成長できると実感できる。と語る姿はまるで困難が起こることを楽しんでいるかのよう。この「行動力」の源泉をたどり経営のヒントを探ります。

- ◆西部地区会
- ◆事業概要:足場架設
- ◆所在地:埼玉県所沢市亀ヶ谷61-1
- ◆起業年月:2011年10月





### やんちゃな青年から職人へ

長野県生まれの星山氏、もともとは人前で話すのは苦手でしたが、ヤンキーになることで克服します。

バンド活動最優先の為、上京後すぐ仕事を辞めて、職無し、住所無し、車中泊あり、友人に食べさせてもらうほどお金が無い20代前半でしたが、とても充実した日々でした。

転職は27歳の時、付き合っていた女性が第一子を授かり、当然のごとく職探し、ところが前述した状況で雇ってもらえる企業がなかなか見つからず、行きついたのが建築業足場の仕事でした。

### 個人事業主から法人化、埼玉県への進出

その後、第二子の妊娠を機に「お金をもっと稼ぐため」に起業を決意。

当時の社長(株ファースト)にそのことを伝えますが、引き止められ社内で歩合制の個人事業主として平成20年にスタートします。

面倒見の良い兄貴分の性格から、人がどんどん集まり3年後には従業員が10人になり法人化へ、当時の拠点は神奈川でしたが、のれん分けで所沢市へ移転し(株ファースト埼玉が誕生します。

激戦区であるこの場所を選んだ理由は、「ノリで」と即答します。

ここで「挑戦したい、できないことはない」という星山氏の信念があったからこそ臆せず行動できたことではないでしょうか。

独立した当初は同業への挨拶など無しで、新規開拓を中心に営業を推し進めた結果、10年連続で売り上げが右肩上がりとの事です。

### 同友会入会、自身と向き合う

同友会入会は2016年11月です。それまでにも、新規開拓として異業種交流会などの会にも積極的に参加していましたが、そこでの会話は売り上げや商品の話が中心、派手で交際費ばかりがかさむ状況で物足りなさを感じていました。

学びに飢えていた星山氏は、インターネットで「社長、埼玉、勉強」と検索、同友会の存在を知り事務局へ連絡します。

ゲストで参加した時に久賀きよ江氏(株メガネマーケット 代表取締役)の進めで理念が何か分からないままに経営指針セミナーの受講を決めました。「入会前は『主張、勢い、感情』で動いていたことが多かったが、入会してからはとにかく考えることが増え、特に科学性を知ったことが大きい」と話す星山氏。従業員からも「社長が変わった」「頼れるようになった」と言われるようになったことで、ビジョンや理念の大切さを知り、学びを通して成長していると実感しています。



### 今後の展望

今では同業と連携して地域を盛り上げていきたいと考えられるようになり、従業員がケガをしても働いていけるような、足場だけにこだわらない事業構想もしています。実家で50年続いている焼肉店を継承していくこともその一つです。

自身の「モチベーションは妻と子ども4人の家族の幸せ、そのために60歳ぐらいには引退して奥さんと世界中旅行したい」と話す想いとは裏腹に、世話好き、仕事を通して困っている人の面倒をみるのが好きなど、やりたいことが山積みで現実的には60歳での引退は厳しそうです。

「問題が起きたらチャンス」とも語り、どん底を乗り越えた時に自分が飛躍的に成長できるという信念を見る思いがします。また、刑務所出所者の雇用も積極的に行うなど、「なぜそこまでやるのか」と問えば、「あたり前のことをしているだけ」と答えます。理屈や難しい言葉でなく行動し自分と真剣に向き合い、社会課題にも積極的に取り組み続けます。

関わる皆が幸せになり、あたり前のことに全力でむかう星山氏から目が離せません。(むさし野地区会 山口将秀 記)



# 小松和人氏

## 笑顔までとどけ、木のおもちゃ

**(株) こまむぐ 代表取締役**

どんぐり形の丸い顔が、斜めの板をコトコトゆれながら下っていく。木のおもちゃの中で、今もっとも売れているとされています。地元川口にこだわり、「感動のものづくり」への道を歩き続ける小松和人氏の作品です。作家から経営者になるまでの道のりを辿ります。

- ◆東彩地区会
- ◆事業概要: 子ども用の木製玩具の製造と販売
- ◆所在地: 埼玉県川口市元郷4-6-6 5号室
- ◆起業年月: 2016年5月





### 衰退する町工場で、もの作りの土台を創る

そもそも、川口市内で木型工場を営む父のもとへ入ったことが、モノづくりに関わる始まりでした。機械の操作から細かい作業まで、基本的なことを学びました。ただ、すでに斜陽産業の底にあった町工場で、実家で働くという安泰は続きませんでした。受注は途切れ、製造することもできません。

時間を持って余すなか、幼い自分の子どものために木製のおもちゃを作ってあげました。そのとき、エンドユーザーである子どもの反応を目の当たりにし、初めてつくることの実感を得られたのです。そこから父の工場の中で、しかも父の機械を使いながらおもちゃを作り、玩具作家として独立。2003年のことでした。

ある日、幾ばくかの生活費を妻に渡し、自家用車におもちゃを積むと飛び込み営業の旅に出ます。その後約2年間、日本全国300か所ほどを訪ねて回りました。

### 歩き始めたら上り坂、でも立ち止まったら

徐々に販路もでき、周囲の協力を得て知名度も上がってきました。海外への出展、木工教室や講演をし、テレビ出演もしました。作品のファンが弟子入りすることもありました。

2015年。作業中に右人差し指を切断しました。幸いに接合でき、リハビリで日常生活に戻れました。が、作家である自分が動かないと事業は止まる。弟子たちはその場の対応だけ。個人事業の不安定さを知り、将来性ということも考える機会になりました。



今年入社の新入社員さん(右)は既に強力なスタッフ!

### 経営者への扉を開けたら 同友会。

#### カタチじゃないんだ

事業を見直し法人化を決めました。そのときの司法書士から「同友会」を紹介され、先輩会員の取り組みを聞く機会を得ました。経営ということを気づかされました。

経営指針、経営理念に取り組み、経営計画をつくり実行しようと努力するなか、社員さんたちは去っていきました。何で?という思いでした。それを理解し経営者としての自分を支えてくれたのが、同友会の仲間でした。

カタチを押し付けても駄目です。常に社員さんを意識するようになりました。会社はみんなで創りあげていくもの、それを同友会で学んでいきました。

働く時間に制約のあるパートさん、新卒採用の社員さん。それぞれ働き方は異なりますが、今では小さなアイデアから展示会への出品まで、自主的に発言しあっています。

### 自らが感動する作品を、子どもたちに届けたい

「会社としての夢は、おもちゃ界のジブリになること。つまりアナログにこだわったおもちゃ作りです。直接見て触れていただき、批判も評価も受け取ります。そのために、工房にショップを併設しました。作家も作品も育つ場所として、拡げていきたいですね。海外への販路拡充も考えています」

将来を見据え、継続的な新卒採用も目指しています。それは従来の技術や発想などの変化に対応することであり、新たなクリエイターを育てることであります。まずは自分たちが感動する作品をつくり、結果として子どもが笑顔になってくれる。全ては子どもたちの笑顔のためです。

共に創り、共に夢見る会社が「モノづくりの街 川口」で、きょうも成長を続けています。 (さくら地区会 池田恵津子 記)



# DOYOUさいたま 500号 あゆみ



1974年5月発行(創刊号)



1986年1月発行(127号)



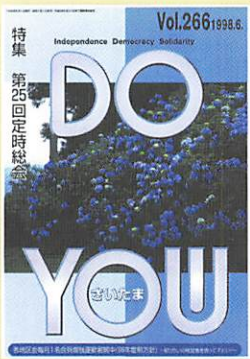
1988年1月発行(150号)



1992年10月発行(200号)



1996年2月発行(238号)



1998年6月発行(266号)



1999年8月発行(278号)



2000年8月発行(289号)



2001年8月発行(300号)



2010年10月発行(400号)

2013年 VOL.1



2014年 VOL.2



## 社長タイムズ

### 「DOYOUさいたま 特集号」社長@タイムズに寄せて

広報の仕事は主に会員向けの機関誌編集でした。が、集めた情報を外部に発信しないのはもったいない。もっとピーアールに使えるのではないかと。その思いが広報紙発行のエネルギーになりました。

他県の同友会の刊行物をたたき台に、イメージを作り、委員会内にプロジェクトチームを結成、事務局にも協力を得てのタイトル決定や、レイアウトの作成、取材対象者の選択まで何度も議論を重ねました。

その後、年一度の産みの苦しみを味わいながらもVOL.4まで発行することができましたが、何よりの成果は、経営者たちが辿ってきた様々な道のりを取材することで、自分たち自身がその魅力を感じ、気づきを得られたことです。さらにこの活動を通じて、委員同士のつながりも強まったと思います。

(さくら地区会 池田恵津子 記)



2015年 VOL.3



2015年 特別号



2016年 VOL.4



# 知事対談

※毎年1月号には知事対談を掲載しています。



## ポスター

2016年に同友会PRを目的にポスターを制作しました。各地区の例会やイベント等で広く活用されています。



## 広告大賞

DOYOUさいたまに毎回同封されている広告チラシの中から一年間の優れた広告チラシに対して、広報委員が審査員となり広告大賞を会員1名に授与しています。同封広告チラシは経済交流にもつながると年々増加傾向にあります。

## 『DOYOU さいたま』500号刊行に寄せて

### 代表理事 太田久年



『DOYOUさいたま』500号の発刊誠におめでとうございます。

埼玉中小企業家同友会が1974年に設立されて今年で45年目を迎えます。

本誌の創刊当時を存じるには至りませんが、埼玉同友会の歴史とともに歩んできた広報誌であったことは理解できます。編集に携わった広報委員会の皆様をはじめとする多くの方々のご尽力に改めて感謝いたします。

私の手元にある最も古い『DOYOUさいたま』243号は、美しい高原風景の表紙で、紙面には各地区会の総会記事や大宮市長との対談記事が載っていました。

時代の変化に対応して、紙面のデザインや記事内容も移り変わりが見られますが、本誌の特徴は、常に会員さんにスポットを当ててきたことだと思います。

2004年の2月号から会員さんが成文化した経営理念とともに表紙を飾るようになったことも「人」を大切にしてきた埼玉同友会の表れではないでしょうか。

今後とも本誌が、埼玉同友会発展のための貴重な情報発信ツールとして、更に歩みを続けていかれることを心より願っております。

## 同友会運動の灯台となる広報誌を目指して

### 広報委員長 鈴木一郎



埼玉中小企業家同友会広報誌『DOYOUさいたま』は、1974年5月に創刊。以来45年の歴史を経て今回500号をお届けすることになりました。記念すべき広報誌を発行できましたのも、会員の皆さまをはじめ関係各位の温かいご理解とご協力の賜と深く感謝申し上げます。

『DOYOUさいたま』の歴史を振り返りますと、歴代広報委員の方々から受け継いだ使命がありました。それは、会内に於いては会員の生き生きとした声を届け、会員同士を結び架け橋となり、会の活性化に貢献すること。また、会外に向けては同友会理念に基づく諸活動を広く伝え、会の存在と理念を広く知ってもらうことです。広報とはPublic relations、すなわち、社会関係づくりです。会内、会外のそれぞれに向けて、受け手を意識した広報活動が今後はより重要になると考えられます。

今回の500号を一つの節目とし、更なる100号を目指してこの使命を新しい世代へと引き継いでいけるよう努めてまいります。



広報委員集合写真

機関誌『DOYOUさいたま』の存在する意味の一つに、「今」の運動を記録するものであり、今を積み重ねて歴史を残す、というものがあります。今回、『DOYOUさいたま』の特集を組むにあたり、同友会広報委員としての役割を新たに深められたように感じます。その時々的情勢と同友会運動を振り返ることで、未来に繋がる私たちの活動に更に厚み加わるのではないかと思います。会員の皆様には、ぜひ機関誌の持つ意味をご理解いただき、お読みいただけたらと思います。私たち広報委員も、さらに『DOYOUさいたま』をパワーアップさせられるよう広報活動に精進していきたいと思っております。





## 特集 第47回 青年経営者全国交流会in熊本

# 火の国に集いしわさもんよ、 富国有徳の体現者たれ!

### 第3分科会

「全員退職」から「全員経営」へ  
～全国やからって、美談じゃ終わらへんでっ!!～

報告者：豊田泰隆氏（㈱KOTOYA 代表取締役）

9月12～13日、ホテル日航熊本ほか4会場にて第47回青年経営者全国交流会（略称・青全交、中同協主催）が「火の国に集いしわさもんよ、富国有徳の体現者たれ!～Try&Error やったことしか残らない～」をスローガンに行われ、45同友会および中同協から約1500名（埼玉からは事務局含め22名）が参加しました。

### 全体会

1日目は「企業づくりと青年部活動」「次代のリーダーへの期待」などをテーマに、見学分科会を含む15の分科会が4会場ほかで行われました。

2日目の全体会では、開催地を代表して木村正夫・熊本同友会代表理事の挨拶、続いて主催者を代表して広浜泰久・中同協会会長より挨拶がありました。

記念講演では、放送作家で脚本家の小山薫堂氏より「幸せの企画術」をテーマに講演。熊本県のPRキャラクター「くまモン」の生みの親で、さまざまな分野で「人を幸せにする」企画を生み続けている小山氏の講演は、自社を見つめ直し、未来のビジョンを描くヒントを参加者に与えました。

続いて、4つの分科会からの報告後、田中信吾氏・中同協顧問（日本ジャバラ㈱代表取締役）より「『もう一步前へ』～思考を広く深くし実践と行動を～」をテーマに特別報告がありました。田中氏は「経営指針を策定しただけでは会社も経営者としても成長はしない。思考を広く深くし実践と行動をすることで、勤も運も広がる」と話し、青年経営者に期待を込めて自分の頭で考え行動する「もう一步前へ」の生き方の重要性を語り、青年経営者にエールを送りました。

その後、次回開催の愛知同友会にバトンが引き継がれ、中野愛一郎・中同協青年部連絡会代表があいさつ。最後に中山英敬・中同協幹事長がまとめを行い、佐藤祐一・愛知同友会代表理事の閉会あいさつがありました。エンディングでは熊本青全交実行委員会と愛知同友会の参加者がステージ上でエールを交換し、2日間の青全交は終了しました。



報告者の豊田氏は23歳で同友会に入会。代表交代を控えた2008年（25歳）に指針セミナーを受講し、理念の重要性を認識し、その頃青年部活動を本格的に始めます。

2010年にKOTOYAグループの代表取締役に就任。意気揚々とスタートしますが、売上げも停滞し苦しい経営が続きます。青年部活動や例会の報告の機会が増えていく半面、実際の社内は苦しい状況だったようです。

さらに追い打ちをかけるように最悪の事態が襲いかかります。事の発端は、指針書で掲げた給料の完全歩合制への移行。それまで社員に計画を立てて貰い実行していたのを、「社員任せの計画ではぬるい!」と考えた豊田氏が独断で踏み切ったこの改革で、全員退職という最悪の事態を招く事となります。

当時は、社員に任せることとほったらかすことを履き違えていた。すべて自分の姿勢が招いた結果だと振り返ります。

そのピンチから立ち直れたのはやはり同友会の絆でした。信頼できる同友会の仲間の紹介で社員を迎え一から立て直しを進めます。理念を再考し顧客を整理し、計画的な採用・教育のシステムを確立した結果、1年で黒字化を達成。その後も6期連続で、売上げ社員数ともに順調に増加しています。

最後に、全員退職後は本気で離職率0%の会社を目指していたが退職者が出てしまった。まだまだ自分も会社も高めなくてはならない。というところで報告が終わりました。

報告からの学び…社長が独りよがり指針を作っても、信頼関係が足りないと社員との軋轢あつれいが生まれます。社員と一緒に作り上げることで、良い会社へと成長できる。まさに、社員は信頼できるパートナーという、人を生かす経営の基本を学んだとともに、ピンチをチャンスに変える、経営者の意思の強さが大切だと感じました。

（浦和地区会 小杉英介 記）



第7分科会

無いものを創り、育てる哲学  
～一人ひとりの「やりたい」をカタチに～

報告者:水木秀行氏(PORT STYLE(株) 代表取締役)



2019年9月12日～13日青年経営者全国大会が熊本で開催され、1500名を超える参加者が3会場に分かれての分科会でした。

第7分科会はPORT STYLE(株)代表取締役 水木秀行氏(兵庫同友会)から「無いものを創り、育てる哲学」～一人ひとりの「やりかた」をカタチ

に～と題して報告がありました。

水木氏は創業15年で年商14億の凄腕社長である。強い組織と強い社員がいれば何をしてでも成功できる。まず社長ルールを辞め公私混同を撤廃。さらに今ある組織図と将来の組織図を作成し、より強い組織づくりに切磋琢磨している。

新入社員は入社時に自分との目線を合わせる。2015年に6名の新入社員が入社して全員残っているが次年度の6名の新入社員は3年で全員辞めてしまった。教育と育成は年々変化させなければいけないことに気づく。これはパターンを知りパターンにハマらないことが重要である。

拡大戦略では大手商業施設に絞り入店をしてほしいとってくれる所に入店する。

それでも失敗はあります。水木氏は失敗のリカバリーを最速で行う。継続と撤退の意思決定がともスピーディーである。この意思決定の速さが市場の独占に直結していると思いました。今後の展開として現在の42店舗から海外事業部を展開し5年後100店舗を目指しております。

「報告の最後に問題のない会社はない。社員の一つひとつの問題をきちんと解決すること。そして最後は折れない心がなければ何も始まらない」と力強く語っており心に突き刺さりました。沢山の学びと出会いと感動があった青全交in熊本でした。(彩北地区会 林俊治 記)

第9分科会

社員に殴られたあの日から  
～ポンコツ後継者が強靱なチームを作れた理由～

報告者:徳毛裕介氏(株レジジ 代表取締役)



報告者の徳毛さん。当時付き合っていた彼女の父親が経営する会社に転がり込むように入社しました。数年たったある日、だまって会社の決算書を見て、啞然。社長に聞いただと、会社を継いでくれないかと。ここから、経営者人生が始まります。

ひどい状態の事業を引き継ぎ、まずは徹底的に数字の改善。決算書はチェックを入れた付箋紙だらけ。それを一個ずつ改善させる毎日。数字のためなら、社員は辞めてもいい、去るもの追わずといった、冷酷に徹した改革。数字は改善されたが、社員さんから出る不満や不安にまともな回答もできず、あげくのはてに、社員に殴られてしまいます。会社も辞めたい、社長もやめたい。そういった彼を変えたのは、青年部での例会報告。悩みを打ち明け、全てを自己開示した報告をし、先輩方、仲間がきちんと受け止め、G討論は、彼に対する愛と厳しさのアドバイスがほとんどだったそうです。

ここから、変革と挑戦がはじまり、意を決しての石川青全交参加。そこで、「何のために」に気づきます。それは、「自分と社員の居場所を作るため。」でした。

この変化に気づくまで6年。6年間休まず変革と挑戦を続け、ようやく社員さんと向き合い、自分と向き合い、逃げることなく経営する事ができるようになりました。離職率の低下、社員さんたちの主体性向上。毎年全員で撮る写真に笑顔の人が増えてきた。この写真が1番の喜びだそうです。近々では、同業の会社をM&Aするほどに成長しました。

「自己開示」「自分と向き合う」「社員と向き合う」経営者として絶対必要な事をあらためて学べた分科会でした。(東彩地区会 齊藤壽和 記)

特別支援学校と障害者就労施設・企業による『企業見学会』

障害者も企業の一員になれる!!  
《仕事の切り出しをしていこう》

訪問先:フローリスト石原・パーシモンホテル・ベルセゾン (むさし野地区会)

障害者雇用推進委員会では、「障害者はどんな仕事ができるのか」という視点から、企業3社を見学し、意見交換会を行いました。障害者雇用推進委員会主催により特別支援学校、障害者就労支援施設、本会会員から27名が参加しました。

フローリスト石原では、仕入れた植物の茎を切り余分な葉を剪定する作業や、見本の写真を見ながら祭壇を作る業務等、パーシモンホテルでは1部屋10分程でボトル補充やベッドメイク等を清掃員1名で行う清掃業務、ベルセゾンではバックヤード使用

物品の清掃や披露宴テーブルのセット等業務を見学させて頂きました。

意見交換会では障害者を雇用する上で懸念される点についてまず企業からお話を頂き、その点に対して学校や障害者就労支援施設から答えるという形で、障害者とのコミュニケーションのとり方等、多くの情報が交換されました。

また、既に障害者を雇用している企業からは、社員の中に障害者雇用の理解者を作り、その社員を経営者がフォローする事が重要であるといった雇用管理上のノウハウも伺う事ができました。

見学してみると実際に障害者が行える業務が数多く見受けられ、今後各社での障害者雇用の場の創出や更なる雇用に向けて可能性を強く感じるこのことのできる有意義な会となりました。

(浦和地区会 松本仁 記)



## 各地同友会が増強目標達成に向け東京に集結!! ~中同協~



中同協 会長 広浜泰久氏

8月22日に東京で、全同友会が増強目標の達成で全国5万名会員の実現に向けて会員増強決起集会を開催し、47の全同友会と中同協から256名が参加しました。

平日の昼間にも関わらず、全国47都道府県の同友会から「5万名会員実現」を目指した経営者達が参集し、熱い議論を交わしました。

広浜会長は開会に際し、「同友会の立ち位置はこれまでと違ってきている。」と御挨拶。単に数字を追うのではなく、何のために仲間が必要なのか?同友会理念をどのようにして地域に広めて行くのか?を繰り返し確認しました。

埼玉県より厳しい経営環境にありながら、飛行機や新幹線を使って集まる全国の理事役員の方々と交流する中で、埼玉同友会の代表理事として、自社の経営を発展させるとともに、会員企業の社会・経済・政治的な環境を改善するために、全力を傾注する使命感を自覚した1日でした。ありがとうございました。

(東彩地区会 太田久年 記)

来る8月22日に「2019組織強化・会員増強全国交流会」が東京都港区芝浦にて開催されました。埼玉同友会からは太田代表理事、私を含む3名の副代表理事が参加致しました。

全国都道府県から256名の参加者が集い、会場内は「5万名会員実現」に向けた実践報告並びにG討論が行われました。

特に組織強化、会員増強、地区会作りにおける様々な事例について、ご参加の方々より聞く事が出来ました。

埼玉同友会が長年掲げる「1200名会員」の実現に向け、新たに身が引き締まる思いになった事は間違いございません。この思いを形にする事が私自身の役目と改めて感じた次第です。

中小企業家同友会全国協議会の中山組織強化本部長をはじめ、全国のこれに拘わる同友会仲間の皆さんと共に、5万名達成に向けて今後も活動して参ります。

(むさし野地区会 小山秀朗 記)

## 第6回経営労働問題全国交流会in岩手



グループ発表で報告する満生氏

残暑厳しい8月29日～2日間にわたり岩手県盛岡市で経営労働問題全国交流会が開催されました。

本年より埼玉の経営労働委員長を未熟ながら拝命した私にとっては、全国の経営労働委員の皆様とお会いするだけでも緊張を禁じえず、まずは高ぶる熱い気持ちを抑えようと盛岡といえば「盛岡冷麺」の発祥の店「食道園」にて盛岡冷麺を食し交流会に臨みました。

本会の開催意義の確認のあとに林委員長の問題提起・宮城、香川同友会からの実践報告を聞いてグループ討論。

私は「引き」が強く、全国215名の経営労働の皆様を前にグルー



プ発表に選出されました。大変緊張しましたが、背中に埼玉を背負って精一杯発表させていただきました。

翌日も岩手県同友会の水戸谷氏による報告とグループ討論で大会は終わりですが、その後夕刻まで中同協の経営労働委員会で「働く環境づくり」の運動をどのように進めるかについて、そして企業変革支援プログラムの取り組みについてなどの議論を行いました。

まさにこの2日間は私にとって経営労働委員会の役割と責任を知る良い機会となりました。

帰りは、わんこそばを食べて帰ろうと思っていたことをすっかり忘れてしまうぐらい経営労働委員会尽くしの学びの盛岡でした。

(中部地区会 満生 剛 記)



## 各地区会で開催された例会をご紹介します。

### 【東部地区会・埼玉地区会8月合同例会】

## 日本の発酵文化を継承する「職人」の こだわりとブランド戦略を知る

報告者：弓削多(ゆげた) 洋一氏(弓削多醤油(株) 代表取締役)



8月23日幾度も親睦を重ねてきた「埼玉地区会」と共に開催した「東部地区会・埼玉地区会8月合同例会」

「親睦を深めると共に学びある合同例会にしよう!」という目的の元に、同友会会員企業から

実践的な学びを得ようとして依頼したのが、西部地区会 弓削多醤油(株)弓削田洋一氏。

早朝より春日部駅に集合しバスにて会話を楽しみながら日高へ。

まずは工場見学では日高市のみならず多方面からも多くの方が訪れる「醤油王国」にて、弓削多代表が自ら工場案内。幾つもの木桶に仕込まれた大豆や麹の発酵している芳醇な香りに包まれながら製造について学び、併設のショップでお買い物を楽しむ。

会場を移動し、「日本の発酵文化を継承する『職人』のこだわりとブランド戦略を知る」というタイトルから、日本の食文化に欠かせない「醤油」と「発酵」について、そしてブランド戦略の鍵となる木桶と職人としての探求心。日本食ブームやオーガニックの観点から、海外での需要が増えている中での海外戦略と今後の展望について、西部地区会や他地区、ゲストなど総勢33名が引き込まれる貴重な報告から気づきを得る時間となりました。

濃く深い時間を堪能した後は、会員間で更なる親睦を深めるべく「サイボクハム」にてジューシーな豚肉や地場野菜でのBBQタイム!笑い語りお腹も満たされ、その後のお買い物や温泉などのフリータイムを更に皆で楽しみ、学びと親睦に溢れた充実した合同例会となり、参加された方からは「素晴らしい例会だった!」というお声を頂き、無事に丸一日の長い例会を終えることができました。(東部地区会 榎本恵 記)

### 【川越地区会 8月例会】

## 貴方の会社のHPは企業イメージ型?商品PR型?

～ポイントや注意点、必要な情報・不要な情報とは?～

報告者：菅沼剛氏(行政書士菅沼剛事務所 代表)

8月23日(金)、ウェスタ川越にて川越地区の例会を開催しました。川越地区では例年8月には暑気払いを行っていましたが、今回は趣向を変えて、川越地区の菅沼氏を報告者とした通常例会を執り行いました。

例会の内容ですが、本来であれば「同友会型企業のあり方」についての学びですが、今回は試験的に、より実践的な



学びとして、ホームページ(以下HP)を作成したり更新したりする際の注意点や重要な点、HPのあり方や見せ方、活用方法についての勉強会となりました。

企業の業種別によるHPに掲載する必要情報の

違いや同じ情報でもページ内での見せ方のテクニック等、言われてみれば「なるほど!」と思える有益な内容でした。

HPを新たに作成したり更新する際に、自社の業務を知らないHP制作会社に対して、どの様な情報を伝えればいいのか、どの様に情報を見せて欲しいかといった点や更新頻度はどれ位がいいのかといった点にも触れられていて勉強になりました。

また、HPは情報発信だけでなく情報収集も重要であるといった今までにない視点について気付くことが出来ました。Googleアナリティクス等のツールをHPに埋め込むことによりアクセス解析を行えるとの事です。このツールを使うことによりユーザーがどの様なキーワードで、何処を経由してアクセスしてきたか等の情報が得られます。それによりユーザーが何を求めているか?どの様なキーワードがアクセスの向上に繋がるかといった事を知ることが出来て、それを元にHPをアップデートしていくといった手法も学ぶことが出来ました。

グループ討論では自社のHPの目的はなにか?またその目的通りに上手く活用できているかといった点や自社のHP問題点や改善点を話し合い、今後どの様にHPを活用するか、具体的には営業や求人にも活用できるかといった有意義な討論をする事ができました。(小田 明 記)

### 【彩北地区会 8月例会】

## 地域のこれからを考える!

～中小企業・小規模事業者が活躍する振興条例をつくらう～

報告者：新井俊雄氏(株)アライ 代表取締役)

角田守良氏(加須市 副市長)



彩北地区会では、昨年地区会を立上げる際、地区会の地域である加須市、羽生市にて地域貢献をしていきたいという思いがあり、そのためには地域の歴史、課題と行政が取り組んでいる産業振興策を勉強しようと考えて居りました。また地区会の企業が地域貢献に取り組むとしても、どの様な考え方で行うかも議論をし、中小企業振興条例に沿った活動が良



いと結論に至りました。そして今回はその取組みの1回目として、政策委員会委員長新井氏から中小企業基本法、中小企業憲章、小規模企業振興基本法に沿った各自治体の振興条例づくりの流れと地元(川口市)での自社の地域貢献取組例を披露して頂き、中小企業振興条例の理解を深めました。

ついで大学の4年間以外は加須で暮らして居られる角田副市長から加須市の魅力、現状と課題と加須市商業振興プランについて講演を戴きました。今後この講演内容に盛り込まれた内容に沿って、産業振興、中小企業振興ビジョンの展開を行うとのことで、彩北地区会として地域貢献に取り組む意義を再確認しました。また9月例会の古民家の民泊や農業の可能性に取組む報告例会に角田副市長も参加頂くことになり、今後の地区会の活動に自信を深めた事も報告させて頂きます。

シリーズ2回目は羽生市の魅力、現状と課題と地域振興プランについて勉強する予定です。(山田和豊 記)

### 【大宮東地区会 9月例会】

人生100年時代! 年金じゃ足りないらしい。  
会社を良くしていく為にもまずは経営者  
自身のポートフォリオを見直す時!  
どうする? 同友会経営者の皆さん

報告者: 菅野喜雄氏 (埼玉りそな銀行 シニアフィナンシャルアドバイザー)  
大内直人氏 (埼玉りそな銀行 大宮支店)

真面目に経営するだけじゃもう良い会社ではない。会社を



どお話をいただきました。

先日「老後2000万円」という報道が流れた事で投資に関する意識の変化が国内に起き、さらに老後いくら必要なのかということがある程度明確になり目標ができたことで、個人の方々が相談などに動き出したそうです。これはとても良い動きであると菅野氏。その理由としては資産について夫婦の話をする一日平均時間は米国では約30分あるのに対し、日本では約3分しかなく日本の資産や投資に対する興味のなさが問題となっていた為だそうです。それを踏まえて様々な投資方法、考え方、運用方法、多方面の考え方を教えていただいた上でグループ討論をし、それぞれの考えを皆で共有させていただきました。

投資は自己責任ですのでいろいろな考え方があるのが当然であり、どれが正解というものはありません。しかしながら近道は自分の得意分野を活かし投資を行うという事であり、更に自分の目でしっかりと見極める事が大事であるという事にまとまりました。

日本は世界的に見たら投資に関して恵まれている環境です。それに気がつくことで新しい発想が生まれるのでは無いかと気付かされた例会でした。(柴田大智 記)

## 新入社員リフレッシュ研修会 〈社員教育委員会〉

9月2日～3日

於:さいたま新都心ビジネス交流プラザ

今年の新入社員研修に参加した方、今回、初めて参加した方が、「おはようございます」の挨拶とともに会場に入ってきました。新入社員研修の時とは違い半年しかたっていないのに社会人の顔になっていたのに驚きました。研修生が集まるにつれ「久しぶり」、「元気だった」と研修生同士で最初の声を掛け合う場面も見受けられました。

司会の和泉さんの号令で研修が始まりました。最初の研修は、コミュニケーションについてでした。

ゲーム形式の研修で、最初は眠そうな受講生もいましたが、進むにつれてグループ内のコミュニケーションもうまくとれるようになったようでした。昼休憩の後は、先輩社員の方々のパネルディスカッションを行いました。

受講生達は、入社2～3年目の先輩社員の話聞いて自分たちの2年後、3年後の姿を想像しながら、聞いているようでした。先輩社員の話聞いた後は、回転式グループ討論を行いました。

自分のグループ以外の受講生とも意見交換をするので自分のグループに戻り課題をまとめるのに苦労していたよう



ですが、グループ発表の時は、どのグループも素晴らしい発表でした。

2日目は、アイスブレイクから始まり、中部地区会の水上さんに「仕事とは」「働くとは」「生きるとは」の報告をしていただきました。水上さんの報告を、受講生達が真剣に聞いている姿がすごく印象的でした。報告の後、グループ討論を行い、午前の研修は、終わりました。午後からは、古木さんに講師をお願いして、社会人基礎力の研修を行いました。話を聞いたり、ワークをしたり受講生達に分かりやすい内容で、受講生達も気づきの多い内容でした。

最後は、受講生一人ひとり目標を発表して研修は終了しました。

この研修で感じたことは、受講生が、仕事を通じて日々成長していて少ずつですが社会人に近づいているんだと感じました。また、社員さんの成長を感じられる研修なので、できれば、経営者の方にも参加頂き社員さんの変わっていく姿を見て頂けるといいと思いました。

(大宮中央地区会 高橋浩一 記)



新たな辞書の1ページ 新入会員紹介 (9/1~10/1)



**武井将昭**  
 (株)セントラルビルワーク  
 むさし野地区会  
 各種清掃業務



**水野純子**  
 きれいプロジェクト(株)  
 さくら地区会  
 美容・健康サロン、耳つぼセラピー、  
 アクアチタン溶カプセル、セルフホ  
 ワイトニング(歯)、泡エステ、MTGS  
 XPAD、ファイテン、日本トリム等



**川岸勝**  
 ジーイーエム(株)  
 さくら地区会  
 コンピュータサービス、システム開発、  
 インターネット・ホームページ制作事  
 業、レンタルオフィス、iPhone修理



**藤森洋佑**  
 (有)ロードハウス  
 東部地区会  
 自動車(4WD車)用オリジナル  
 部品の企画開発と、それらを使  
 用した車両製作と販売



**天坂葉平**  
 税理士法人 埼玉東部会計事務所  
 東彩地区会  
 中小企業、個人事業主のた  
 めの税理士



**鈴木高志**  
 (株)ヤナセ写真商会  
 川越地区会  
 幼稚園行事の写真撮影及び  
 現像・プリントの販売、他撮  
 影材料の販売



**鈴木直**  
 (有)スズキ  
 東彩地区会  
 板金溶接加工業、高級金物溶接加  
 工での試作・小ロット・単品などを  
 主に板金組立て仕上げ加工



**志賀 朗**  
 ビボットおじさんのパソコン教室  
 むさし野地区会  
 パソコンセミナーの開催  
 講師、解説書の著述、中小  
 企業等へのアドバイス



**小泉太郎**  
 (株)葵石材  
 むさし野地区会  
 寺院、霊園での墓石販売な  
 ど。霊園紹介

同友会日誌 8月1日~31日

- 1日(木) 戸田・蕨幹事会、東部幹事会
- 2日(金) 正副代表理事会議
- 3日(土) 経営指針づくりセミナー【理念編②】
- 4日(日) 大宮東例会、大宮中央例会
- 5日(月) さくら幹事会、彩北幹事会・学習会、東彩幹事会、  
 埼玉葛幹事会
- 6日(火) 川口幹事会、大宮東幹事会、西部幹事会、  
 川越幹事会、大宮南幹事会
- 7日(水) むさし野幹事会、浦和幹事会、中部幹事会
- 8日(木) 北部幹事会、経営労働委員会、広報委員会
- 9日(金) ファム・ミーティング、仕事づくり委員会、  
 大宮中央幹事会
- 11日(日) 北部例会
- 17日(土) 西部例会
- 19日(月) 障害者雇用推進委員会、彩北例会、東彩例会
- 20日(火) 政策委員会、大宮南例会、  
 大宮東第1回プチ勉強会
- 21日(水) プレ報告会(共同求人オープン学習会)、浦和例会、  
 さくら例会
- 22日(木) 第2回地区会長会議
- 23日(金) 東部・埼玉葛合同例会、障害者雇用推進委員会、  
 川口例会、戸田・蕨例会、川越例会、  
 むさし野正副会長会議
- 24日(土) 経営指針づくりセミナー【理念戦略編】
- 26日(月) 第44回新入会員オリエンテーション、  
 社員教育委員会
- 27日(火) 第2回委員長会議、東部勉強会
- 28日(水) 青年部幹事会、大宮ブロック会議
- 29日(木) 中部例会
- 30日(金) 全研実行委員会
- 31日(土) むさし野例会

会員information

《住所変更》

- 大宮中央地区会 大宮自動車(有) 小谷彰治会員  
 〒331-0814 埼玉県さいたま市北区東大成町  
 1-626-2
- 東彩地区会 ワクワクはたらく(株) 大岡美由紀会員  
 〒174-0072 東京都板橋区南常盤台 1-11-6-101
- 浦和地区会 そらまめ総合特許事務所 上村欣浩会員  
 〒330-0063 埼玉県さいたま市浦和区高砂 2-6-11  
 藤屋ビル 202
- 川越地区会 丸友建設工業(株) 橋本卓会員  
 〒350-0842 埼玉県川越市北田島 424-1

《社名・役職変更》

- 彩北地区会 モノリスストーリー 坂本裕会員  
 (株)モノリスストーリー 代表取締役へ

《役職変更》

- 川口地区会 (有)サンアーム工芸社 川崎果夢生会員  
 代表取締役へ
- 大宮南地区会 (株)茜工房 小山大輔会員  
 取締役へ
- 大宮南地区会 (株)茜工房 小山裕輔会員  
 取締役へ

《社名・住所・TEL・FAX・役職変更》

- 彩北地区会 佐藤税務会計事務所 佐藤大輔会員  
 FUNS 税理士法人 代表社員へ  
 〒349-1134 埼玉県加須市北下新井 54-1  
 TEL:0480-72-1103  
 FAX:0480-72-1104

◆ 訃報 謹んでご冥福をお祈り申し上げます

- むさし野地区会 小林紀英会員が逝去されました。
- 東部地区会 清田巳喜男会員のご尊父が逝去されました。

会員数

2019年10月8日現在

地区会名	会員数	地区会名	会員数	地区会名	会員数
川 口	45	大 宮 南	91	北 部	37
戸 田・蕨	54	西 部	45	さ くら	82
浦 和	82	むさし野	119	川 越	91
大 宮 東	43	東 部	132	東 彩	61
大宮中央	39	中 部	49	彩 北	19
		埼 葛	54	計	1043

編集後記

目の前の業務や新規事業の構想に追われてしまい、理念は作ったものの振り返れば自分しか理解できない自己満満理念でした。それが経営指針セミナーを受講してから、理念づくりも一つの大切な仕事として向き合うことができ、自社・自分の掘り下げに時間やエネルギーを注げる環境を用意して頂けることに感謝しています。また、スタッフの方々が真剣に向き合い、それぞれのアプローチで気づきを投げかけてもらえるので、とても贅沢で貴重な時間になっています。セミナーも佳境に入り掲載される頃にはどのような成長を遂げられているか楽しみです。

(むさし野地区会 山口将秀 記)



## 「何を考えるか」で決まる同友会での学びと気づき



1992年度から1994年度の3年間代表理事をつとめられたほか、中同協の共同求人委員長などの要職を歴任され、まさに「同友会理念の体現者」であるノグチコンピュータサービス㈱の野口喜介会長に、DOYOUさいたま誌500号にあたり同友会の課題や未来についてのお話を伺うべく、与野の自社ビルをたずねました。

### —同友会入会のきっかけは？

「1985年に入会しました。その頃はバブル経済が絶頂期に向かうところで、ハローワークや求人誌に募集を出しても、遅々として人材の確保ができないことが悩みでした。先に大阪同友会に入会していた親族の「同友会に入会すればいい人材が採用できるよ」の言葉に背中を押され入会しました」

### —同友会での活動で心に残っているのは？

「共同求人の活動です。創業当初から当面は官公庁からのキーパンチの業務受託を主力事業としてきました。しかし、この業界は移り変わりが早い。キーパンチの会社からシステム開発に会社にグレードアップする必要がありました。同友会の『傘』を活用してどんどん採用しました。同友会の看板があると、学生さんも先生も信用してくれました。当社は9割が新卒採用です。法人の形を整えるよいきっかけにもなりました」

### —採用難の時代。何かアドバイスは？

「『いい人』を採用しようとするから来ないのです。『誰でも採用して育てましょう』というのが同友会の発想のユニークなところです。社会人教育は中小企業家がするのです。全国から優秀な人だけ採用すると、地域との関係が薄くなってしまいます。雇用は地域から。地域を大事にすることは人を大事にすることと同義です」

### —同友会の未来について

「会社は誰のものなのでしょう？私は『みんなのもの』だと思っています。また、会社は大きければ良いのではない。かといって、小さいままでも

良いわけではない。自社が存在する意義を経営者自身がきちんと理解し、普遍的な目標ともいえる『理念』を掲げてほしいですね。『儲かっている人が先生で、儲かっていない人が生徒』のような雰囲気は同友会らしくありません。『同友会はかくあるべし』のような雰囲気も、中心にいる分には心地よく感じるかもしれませんが、実は周りには振り回されています。どこまでも自主・民主・連帯の精神を追究して欲しいですね。『同友会は全国47都道府県にあります。全国組織としてはいわゆる中同協、正式には中小企業家同友会全国協議会があります。ここで『協議会』という言葉が使われているように、同友会は徹底的に協議する場なのです。スピード感が求められる世の中ゆえ、同友会では、まどろっこしいくらい話し合いをした方がよい。上からおろすのではなく、話し合いで決める。これは自社の経営にそのまま活かさせませんか？

私はクリスチャンですが、ユダヤ人の世界では全員賛成は議論が成立しないとみなされ無効なのだそうです。」

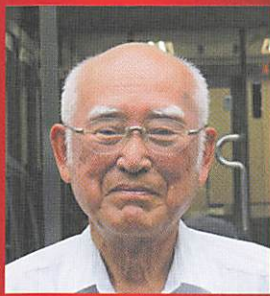
### —現在、活躍している会員の方々へエールを

「『会員は辞書の1ページ』という言葉をご存知でしょうか？これは人間尊重を旨とする同友会の考え方そのものです。まずは会員それぞれのありのままを認めましょう。そして、触れあってみて、ハッとすることがあればそこから何か学べばよいのです。とにかく、自分で気づくことです。同友会に何かを教えてください先生はいません。胸襟を開き学ぼうとする気構えをもって参加すれば、必ず何かしら応えてくれる仲間が見つかります」

### —最後に一言

「同友会は宝の山です。自ら考えて動けば必ず得るものがあります。『何を考えるか』これは同友会だけではなく、経営者にとって一番重要な精神活動なのではないでしょうか」

(浦和地区会 広報委員 大森靖之 記)



## 野口 喜介

のぐち よしすけ

浦和地区会  
ノグチコンピュータサービス㈱  
代表取締役  
さいたま市中央区下落合1085-15  
TEL:048-824-1099  
FAX:048-824-1090  
<http://www.ncsnet.jp>

埼玉同友会  
広報委員

委員長 鈴木一朗	委員 川口 坂本武蔵 大宮東	大森靖之 安形智昭 柴田大智	西部 印牧政彦 水野美和 江崎浩史	島袋輝仁 矢澤敦臣 原田泰僧	さくら 東 彩 齊藤壽和 彩 北 折原昌司	池田恵津子 齊藤壽和 折原昌司	制作担当 梶込博久 印刷・製本 加藤早苗
副委員長 小田 明 中山晴喜 酒井 啓	委員 戸田・藤 石井孝徳 木村亮介 大宮中央 浦 和 小林吉文 大宮南 三友哲哉	鈴木光義 加藤早苗 佐藤正幸	むさし野 山口将秀 宇野碧留 藤元天美	埼玉 松本賢二 東 禎章 荻原 武	早川良史	事務局長 古川佳子	